

aae 2016

Dept. of Architecture and Architectural Engineering, Kagoshima University.

鹿児島大学工学部建築学科

2016年度 学生設計課題

- レストハウス
- 住宅
- オフィス
- リノベーション
- 美術館
- 小学校
- 集合住宅
- フェリターミナル
- 劇場
- 卒業設計

第59回建築展「たてとよがおりなすすきま」

前期合同講評会

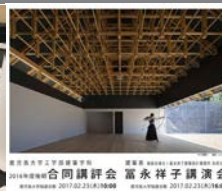


日時：2017年2月23日（木）

場所：稲盛会館

ゲストクリティーク：建築家 富永祥子先生

題目：「原点と現在」



第10回 AOI 会設計優秀賞
 1年生 鳥越さくら 前綜一郎
 2年生 原瑞穂 藤瀬雄登
 3年生 田村健太郎 吉原佳代

平成28年度日本建築家協会鹿児島会賞 卒業設計

金賞 北之園裕子「鹿児島駅に停車いたします。」

銀賞 佐々木麻結「まちなみ保育」

銅賞 秦健二

本山翔伍

奨励賞 則松杏奈

則松杏奈

近代建築掲載

佐々木麻結

日本建築学会九州支部 支部長賞 清藤彩

日本建築学会九州支部 支部長賞 清藤彩

日本コンクリート工学協会 九州支部長賞 楠本繁治・堀内美里

日本都市計画学会九州支部 支部長賞 則松杏奈

日本都市計画学会九州支部 支部長賞 則松杏奈

日本都市計画学会九州支部 支部長賞 則松杏奈

日本都市計画学会九州支部 支部長賞 則松杏奈

日本都市計画学会九州支部 支部長賞 則松杏奈

日本都市計画学会九州支部 支部長賞 則松杏奈

日本都市計画学会九州支部 支部長賞 則松杏奈

2016年度受賞歴

空気調和衛生工学会 振興賞学生賞 周容旭

都市住宅学会九州支部 優秀学生賞 河村悠希

形態創生コンテスト2016「コロキウム構造形態の解析と創生2016」

入賞 高橋賢司・西田哲朗・塚崎克也・中村和史

2016年度日本建築学会設計競技「残余空間に生まれる建築」

タジマ奨励賞 本山翔伍・佐々木麻結・北之園裕子・松田寛敬

後期合同講評会



日時：2016年9月30日（金）

場所：稲盛会館

ゲストクリティーク：建築家 原田真宏 先生

題目：「船のような」



鹿児島大学工学部建築学科 建築設計作品集 aae vol 13

<http://aae.aae.kagoshima-u.ac.jp/>
office@aae.kagoshima-u.ac.jp

編集 松田 寛敬（鹿児島大学大学院理工学研究科博士前期課程1年）

監修 鹿児島大学工学部建築学科

□レストハウス



裏のない建築

桜島を眺めることを意識し、建物の中からはもちろん、建物に入らず眺めることもできるようにした。甲突川沿いを散歩している人が建築の外で、内で、影で休むことのできる設計にしました。

木和田 有美



展望テラス

大きな空間の中で自分だけの場所を見つけて欲しいと思い、壁や仕切りを使わない休憩スペースを敷地全体に設けた。床や屋根に円の形を多く用いることで、安心感を抱かせるようなレストハウスを設計した。

前 総一郎

(設計概要)

敷地：鹿児島市高麗町・甲突川右岸緑地
(武之橋南詰西側)
敷地面積：約 216 m²
要求機能：事務空間 (約 20 m²)
休憩・展示空間 (約 50 m²)
その他屋外設備 駐輪場
(レンタサイクル 5台分)



活気のない北側へ甲突川まで続くステップを、狭空間を室内外共に設け、裏のない飽きないレストハウスを目指した。狭空間もしくは角度ある階段に座りば桜島や甲突川を様々な角度から楽しめる。



レストハウスを設計する土地の隣には甲突川があり、市内の中でも比較的開けていて桜島もよく見えるので景色を楽しめるように2階、3階部に続く階段デッキとテラスを広く取るよう設計した。

2016年度 第59回 建築展

「たてとよこのおりなすすきま」

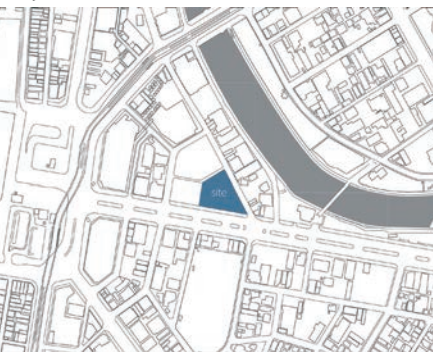


私たちが普段学ぶ「建築」というものを老若男女問わずたくさんの方々に見てもらいたいという思いのもと実施しました。建築を構成する最小限の単位として「たて」と「よこ」の存在に着目し、「たて」を世代間のつながり・時間の移り変わり、「よこ」を人と人とのつながりととらえる。この「たて」と「よこ」の隙間に生まれた「すきま」は何気ない日常の一部となる。



建築設計第II / 2年生後期前半課題

□リノベーション



(設計概要)
 敷地：鹿児島市中央町 8-2
 地域地区：商業地域、容積率 400%、
 建ぺい率 80%、
 防火地域、駐車場整備地区
 敷地面積：約 1767.93 m²
 要求機能：歴史的建築である日本ガス本社
 (1931年頃竣工)を、リビングヘリ
 テージとして使い続ける。内部更新
 や新たな用途を提案する。

子どもたちへ

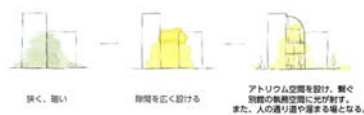


共働き家庭が増えていること、周
 辺をオフィスに囲まれていること
 より託児所の提案をする。子ども
 たちが歴史的建造物に触れるこ
 とや、スタジオやオープンスペ
 ースでの世代を超えた交流を期待す
 る。ファサードや柱のグリッドを
 延長した外部空間を設計すること
 により既存建物を生かす。

光で繋ぐ「リビングヘリテージ」として使い続ける



大通りに面したファサードや会議室などの要点をお
 さえつつ、既存の増築部の暗く狭い部分にアトリウ
 ム空間を提案する。光が入ることで、人のたまり場
 となる空間や執務空間が明るくなることを期待す
 る。



佐藤 由奈

原 瑞穂

繋ぐ、繋がる



本館のファサード、左右の外壁、
 柱をそのまま残した。本館の北
 面の壁を取り払い一面をカーテ
 ンウォールにすることにより開
 放感を持たせ、視線の先の広場、
 図書空間でも見渡すことができ
 る。スラブというコンセプトを
 統一することで既存部分と
 新築部分との調和を目指した。

柴田 隆詠

歴史と文化のオフィス

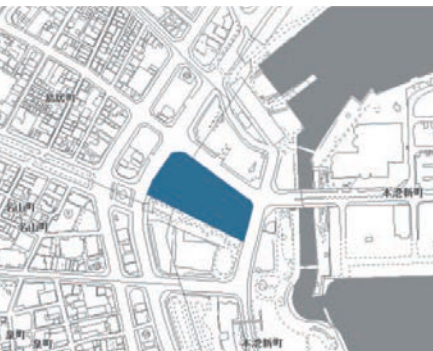


厳格な佇まい、歴史的な価値を
 持つ建築を保存し、現代的な面
 持ちでホールや展示会など文化
 的な要素を含む機能、建築を融
 合させることで、地域において
 普遍的価値をもつと考えた。

弓 尚樹

建築設計第II / 2年生後期後半課題

□美術館



(設計概要)
 敷地：鹿児島市易居町、本港新町
 敷地面積：8832m²
 地域地区：準工業地域、容積率 200%
 建ぺい率 60%
 要求機能：展示するアーティスト及び作品 6 点
 を展示し、その作品のための空間を
 設計する。

アートが繋ぐ



美術館を周辺施設の拠点とし、繋げる様
 子することで周辺の活性化を図る。直
 方体の建物がこの美術館の
 コアとなり、チューブ型の建物は
 展示室である。チューブ型にする
 ことにより、空中散歩しているか
 のような感覚で観覧でき、この地
 域を繋いでいる。



有馬 真輝

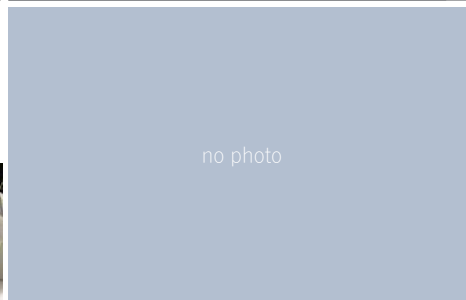
宮原 佳美

吸い込み、解き放つ。



吸い込まれるように地下のエント
 ランスに向かい、常設展示の個々
 の世界観に浸る。企画展示室を抜
 けた先には、桜島がひとつの絵と
 なって現れる。町から桜島へ人を
 吸い込み、解き放つ。この美術館
 は決められた道の中で、様々な景
 色を見つけながら人々をはっと驚
 くような素敵な世界へ導きます。

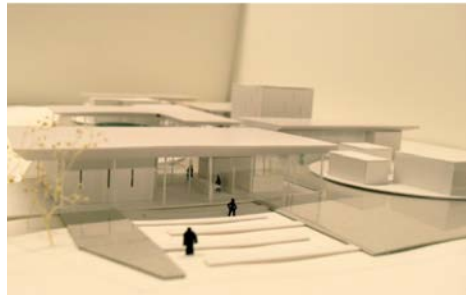
A - museum



幼い頃から親しみのあった敷
 地。
 この場所からは綺麗に敷地
 が見えるため、低層にし、
 展示室としての機能は全て
 地下に埋め、地域の人たち
 にとって楽しい公園になる
 ように設計しました。

徳田 優志

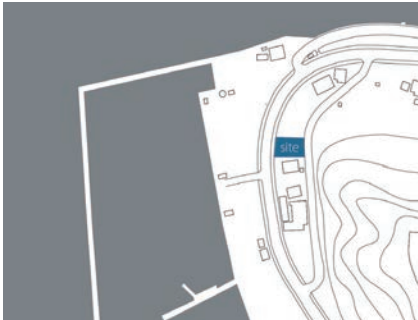
Suien+Museum



敷地が錦江湾周辺なので「水」に
 関連する空間が多い。水に物を浮
 かべると、浮かんだ物は注意をひ
 く。敷地全体に水を張りアート作
 品を包む建築を浮かばせる。反射
 による水の影により幻想的な美術
 館を提案する。

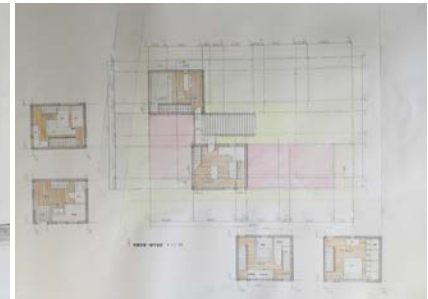
安長 瑠人

□住宅



共通のコンセプトとして、壁ではなくスキップフロアで空間を区切り、2つの家族は漏れ出る光を感じあい、外観は積み木のように積み、寄り添いを意識した。

「親子」・「2つの家族」・「建物」が寄り添う暮らしの3つをポイントとした。どの空間にいても隣から聞こえてくる声や空気管により家の中に一体感が生まれる階段差などを利用して境界を区切っているが、プライベートとパブリックな空間を分けることで、2つの家族が互いに近すぎず遠すぎない空間を提案する。



安長 瑠人 + 佐々木 こゆり

(設計概要)

敷地：鹿児島市桜島小池町
 敷地面積：266m²+56m²
 要求機能：2つの異なる世帯が暮らす家
 構造 / 各自設定
 規模 / 各自設定
 駐車場、駐輪場等も設定自由
 その他 / 法面の使用は自由とし、現状の植栽も各自で検討する

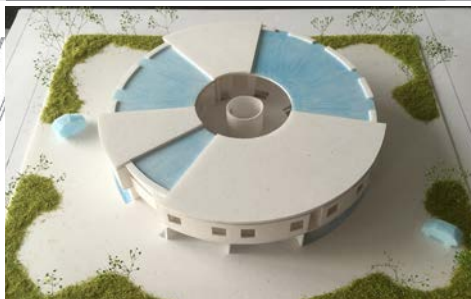
窓辺でつながる住宅

共通のコンセプトの階段の窓と凹凸を意識して上下に変化のある開放的なプランとした。地下まで光を取り込むために地上からガラスの筒を通すように坪庭をつくった。この光の柱を家の中心に設けることで、明るく心地の良い空間となることを期待する。

敷地が錦江湾周辺なので「水」に関連する空間が多い。水に物を浮かべると、浮かんだ物は注意をひく。敷地全体に水を張りアート作品を包む建築を浮かばせる。反射による水の影により幻想的な美術館を提案する。



□診療所



流れる屋根の診療所

清潔さや気持ちよさを演出するのに水を用いた水辺が広がる診療所を提案しました。

水辺は表の動線と裏の動線を分けたり、空間を分けるために用いられるだけでなく、光の反射や水の流れ・音が独特な空間をつくり、来た人を穏やかな気分に変えてくれるのを期待しました。



気を囲むように配置されたガラスは自然と遊歩道を作り出し患者が"こもれび"の中を散策できるようにして入院患者に笑顔とやすらぎを与えるプランである。また動線をできるだけ分かりやすいものとし、光溢れる開放的な診療所をここに提案する。

(設計概要)

敷地：鹿児島市鴨池新町11-23
 地域地区：商業地域、容積率600%
 建ぺい率80%
 防火地域、駐車場整備地区
 敷地面積：約5500m²
 要求機能：診療所(内科)
 構造 / 各自設定
 駐車場、駐輪場等も設定自由
 その他 / 法面の使用は各自検討する



藤瀬 雄登

都市の診療所は静寂を囲む

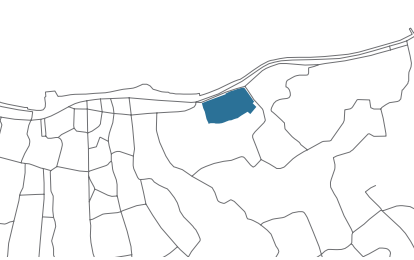
森山 陽介

病院や診療所などはどこか重い雰囲気を感じる。この診療所はそんなイメージを払拭しようと思い提案した。ただ平坦な屋根ではなく、流れ、うねり、そして生じた隙間から明かりが差し込む。そんな診療所が人々を元気にする。



都市の喧騒を避け、囲まれることで生まれる安心感。緑と水に囲まれた中庭は癒しと憩いの空間となる。待合、診察、事務、入院などの各部門ごとで分棟にしてそれらをつなげることで、回遊性、中心に静寂に包まれた空間を生み出す。

□小学校



(設計概要)

敷地: 鹿児島市桜島松浦町 355 (鹿児島市立桜峰小学校)
 地域地区: 指定なし
 敷地面積: 11,297 m²
 要求機能: 普通教室, メディア部門, 特別教室, 体育施設, 管理諸室, 生活・交流空間

息吹の滲出

外部から訪れる人間と学校の児童の動線計画に配慮しつつ、外から校庭まで視線の抜ける透明な校舎を設計した。校舎から滲み出る子供たちはつらつとした雰囲気、つい足を取られてしまうような小学校。



共有

各諸室を分棟プランとし、敷地内には桜島の特産品を栽培する畑を設けた。子供達は泥んこになりながら地域住民とともに作物を栽培し、自然に触れながら成長していく。畑を通じて小学校と地域がつながっていく提案。



池上 功佑

ふたつとひとつ

複式学級では使われない教室が少なくとも3つは生まれる。そこで、ふたつとひとつとしても利用できる教室の形態をコンセプトにし、校舎全体は教室の形態を受け継いだ、視界が突き抜けるような小学校を提案した。



田村 健太郎

中庭でつながる学校

「自然・人・動物...すべてがつながる」をテーマとし、中庭を中心に開放的な空間となるように設計した。中庭では本を読むもよし、鬼ごっこをするもよし、休日には地域のイベントが開催されるだろう。



橋口 里菜

□フェリーターミナル

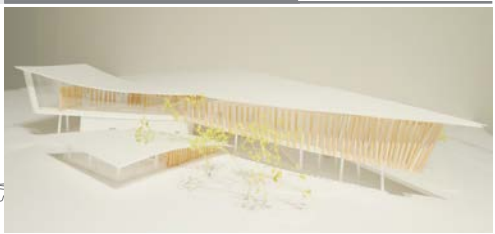


(設計概要)

敷地: 鹿児島市
 地域地区: 準工業地域(鹿児島港側敷地)、指定なし(都市計画区域外)(桜島港側敷地)
 要求機能: 待合スペース、観光案内所、物販店舗、市バス乗り場、事務室、会議室、災害配置の仕方を通り抜けや新たな空間を生み出した。用備蓄倉庫など

あつまりわかれ、またあつまる

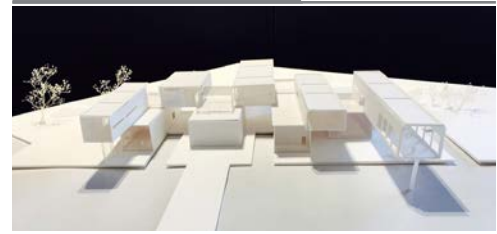
赤松麻由 + 吉原佳代



三角形を基本に平面を構成し、その組み合わせや「迎え入れる」「送り出す」という意味をひとつの建物で表した。鹿児島・桜島港共に、直方体を組み合わせるというルールによって形造ることで両者に関係性を持たせ、ずらしながら重ねることで海側にせり出した2階部分は海側から見た時に浮かんでいるように見え、大きく開くことでフェリーに乗って来た人を迎え入れる。

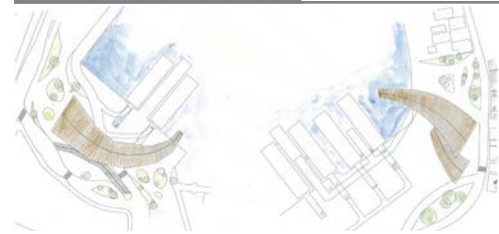
ひとつで

谷川愛 + 水口ひかる



軒下の日常

辻瑞彩乃 + 脇田佳



海にせり出した軒、まちに向かってのびた軒、それぞれがひととフェリーと呼応する。カゴシマとサクラジマ、それぞれにのびる軒の下には人々の日常が存在し、建築のなげかけによって、ひとのさらなる流れが軒の下からうまれる。

建築設計第Ⅲ / 3年生前期後半課題

集合住宅



(設計概要)
 敷地：鹿児島市三和町
 地域地区：第1種中高層住居専用地域
 第1種住居地域敷地
 敷地面積：約157000㎡
 敷地の内部より1街区を選択
 要求機能：集合住宅、公園、敷地内道路

切って嗣ぐ



歴史を再編する 栗林 優子



三和町はかつて難民を受け入れた場所である。現在三和町に残っている奄美・沖縄の雰囲気や文化を継承しながら、難民を受け入れることで新たな文化を形成し歴史的価値を再編する。今回は難民を受け入れる最初の段階を設計した。

池上 功佑

三和町に残る老朽化した住宅を解体・減築し、その際に得られる古材で集合住宅や古材バンクをつくる計画。戦後の難民のための住宅はその役目を終え、生活に寄り添う古材として鹿児島県を循環する。

TRANCEMIGRATE



町湯-私と公が参みだす暮らし- 高木 香織



この町には2つの温泉が今もなお、町の人々の憩いの場としての役割を果たしている。孤独な高齢者を受け入れ、人々の憩いの場となり、また町の外からも人々が訪れるきっかけをつくりだす施設として、温泉と集合住宅が一体となった『町湯』を提案する。

加藤 佳輝

空き家や空き地、狭い路地など様々な問題を抱える三和町。そこに訪れる移民と、社会の現状を打破する「トランスヒューマン(H+)」。三和町に流入する移民を「H+」に転生させ、世界に輩出する「H+の町」の設計。

あふれる暮らしのその先に 辻端 彩乃



住宅街に足を踏み入れると三和町特有の雰囲気や深い住民の暮らしのあふれ出しにより住環境が形成されている。住居空間と外部空間の間にあるそれは緩衝帯となる。三和町民と移民の関係をこの「あふれ出し」により築いていく。

建築設計第Ⅳ / 3年生後期後半課題

劇場



(設計概要)
 敷地：鹿児島市加治屋町20-17
 地域地区：商業地域、容積率500%、建ぺい率80%、防火地域、駐車場整備地区
 敷地面積：約11,880㎡
 要求機能：600人以上のホール及びホール関係諸室、別用途の1000㎡以上の公共施設の計画。

Green Hill



都市の非日常空間 田村 健太郎



薩摩地方には古くから伝わる森殿(モイドン)という神の宿り木がある。今設計は鹿児島市の市街地の都市公園として位置づけ、敷地に静かな森殿を配置し、市街地の喧騒から切り離された劇場空間を提案する。

高尾 奈緒

甲突川の緑地と隣接していることから、緑地を敷地のなかに引き込みたいと考え、敷地全体を緑地化し、地中から建物が隆起したような形状にした。人が集まる場所にしたいと考え、中心に広場を配置した。

集い、広がり、回る



音と水の共存 中野 友愛



この敷地に人がどのように訪れるか訪れたいかを考えて建物を配置した。敷地中央に入口を設けアプローチに水面を張る。入ったすぐにガラス張りのリハーサル室を設ける。そうすることで建物の外にいる人は音楽を楽しみ、その光景を街に映す。

高木 香織

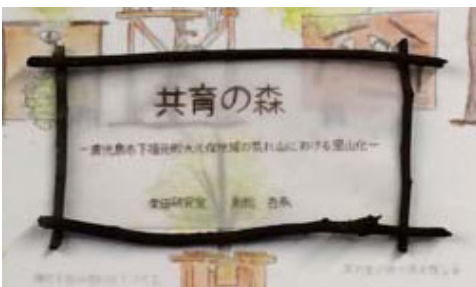
敷地は、甲突川の緑地と小学校に挟まれた自然と文化の要素に挟まれ開放的な敷地であると感じた。自然・文化・芸術の3つが同じ空間の中で混ざり合い、訪れた人の回遊性を生むような開放的な劇場を提案する。

ついてから生まれる輪 吉原佳代



空間を分ける面を平面・断面方向にそれぞれ歪め空間に変化を持たせることで、外と内の境界を曖昧にし、視線の抜け方に変化を持たせた。「公園の中にある劇場と図書館」をコンセプトに掲げ3つの機能を融合させることにより、相乗効果生まれる。

いつからか、まちから子どもたちの姿が消えた。
 ふと保育園を見ると、どこも子どもたちが柵に囲われている。
 必要なことだけれども、まちから追い出され、孤立しているかのよう。
 子どもたちのための保育園がまちと手を取り合うために、これからのまちは一体どうあるべきなのか。
 この町のもつ景観を解釈し新たな形に落とし、
 まちと保育園の機能がうまくまちなみに溶けこむような「まちなみ保育園」を成立させる。



鹿児島県下福元町大久保地域にある山は、地域住民の高齢化により維持管理が難しく、荒れ山となっている。この山を、下町の子供や地域の人々がふれあい、自然体験や里山保育ができる場所に里山化すると同時に、近年問題視されている子供の自然離れを解決する。

ワークショップ形式で交流をしながら、間伐作業やツリーハウスの建設を行う。自らの手で行うことで、この山に愛着を持ち、自然に対する意識を変えることや、建築に対するハードルを下げる事が可能になる。下町の子供、親、地域の高齢者などが共に育ち、共に成長する。街の人がつながる”共育の森”となる。



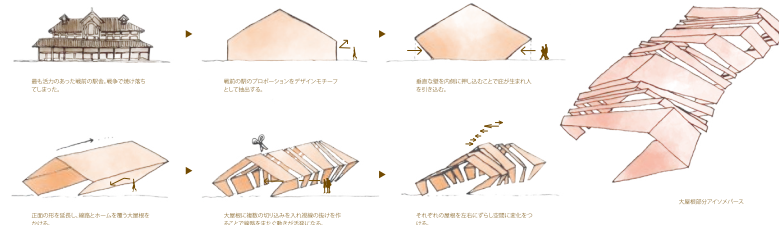
上町地区に明治時代からこの鹿児島を見守ってきたものがある。鹿児島駅だ。

県庁所在地である鹿児島市において「鹿児島」を名乗っており、JR九州において正式な終点である。

しかし、戦後復興の都市計画で市街化が南下していき、かつてのにぎわいも一時的なお祭りなどに限られるようになってしまった。

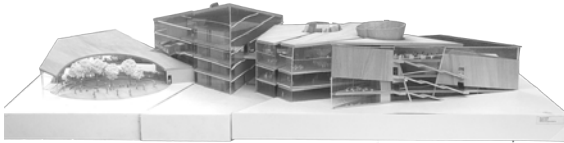
最も活力あった時代の駅舎は戦争で焼け落ち、現状では長いホームと建て替えられた駅舎が静かに佇んでいる。

これから観光資源を主に上町地区を再興することを見据えた時、この鹿児島駅が再び町の中心となることで町と人をつなぐことだと考え、鹿児島駅の再設計と観光に立ち寄った人と市民のための施設を設計し、この上町地区のまちづくりのきっかけとしていきたい。



If the Japanese government decides to be a host country for immigrants, urban planning and architecture would be influenced by the influx of immigrants.

Should there be a space where immigrants to Japan could rely on for learning and easing one's anxieties. This building would help transition immigrants into communicating with their surrounding community.



URL: <https://project-000-023.tumblr.com/>
password: 000/023

FORM FOLLOWS FUNCTION はモダニズム建築における代表的な建築の形と機能に関する理論で、言い換えれば、FUNCTION (という問題) に対して FORM (つまりデザイン) によってその問題を解決するといえる。

このプロジェクトにおける問題提起は、複雑化する社会においてすでに存在する問題を発見し、解決するデザインプロセスでは、建築分野は遅れを取りつつあるのではないかと主張である。

存在する問題を解決するための建築デザインではなく、数十年後の将来的に訪れるであろう問題に対して、建築分野として望むべき未来は何であろうか。SPECULATIVE ARCHITECTURE. 思索するための建築である。

さらに、この問題を考えるにあたって建築のデザインが様々な学術分野の研究結果にいかにかえることができるか。これまでの多くの分野の多くの研究成果を建築デザインに変換するのにどのような感性をもつてなしえることができるか。ARCHITECTURE ACKNOWLEDGES ANALYSIS. 研究的要素を持つ建築である。